

平成29年度第1回秦野市行財政調査会（行財政経営専門部会）

1 開催日時	平成29年6月2日（金）午後4時50分から6時5分まで	
2 開催場所	秦野市役所本庁舎4階 議会第3会議室	
3 出席者	委員	斉藤部会長、足立委員、横溝委員
	関係課等職員	企画課長、同課長代理、同課担当1名 財政課長
	事務局	政策部長、行政経営課課長代理、同課担当1名
4 議題	(1) 本年度の進め方について ア 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）等の外部評価について イ 人口減少・少子高齢社会に向けた自治体経営の在り方について (2) その他	
5 配付資料	資料1 秦野市まち・ひと・しごと創生総合戦略（秦野市総合計画後期基本計画リーディングプロジェクト）等の外部評価について 資料2 人口減少・少子高齢社会に向けた自治体経営の在り方について 資料3 「新はだの行革推進プラン」総括評価報告書（平成28年12月・秦野市行財政調査会）【抜粋】 資料4 第3次はだの行革推進プラン実行計画実行方針等に係る意見書（平成28年12月・秦野市行財政調査会）【抜粋】	

6 会議概要

(1) 開 会

【事務局】 ー当日資料の確認ー

【政策部長】 ー挨拶ー

【部会長】 それでは、本日の次第に従い、進めていきたいと思います。議事
(1) アの資料の説明をお願いいたします。

【企画課】 ー資料1に基づき説明ー

【部会長】 中柱のKPIの部分を個々に評価して、大柱の基本目標のところは、コメントをするということによろしいのですか。

【企画課】 基本目標について、KPIの達成状況などを踏まえて、評価の目安を決めていただき、AからDまでの4段階で総合的な評価をしていただきます。

【部会長】 K P I を積み上げながら評価していくことと思いますが、具体的な自己評価やK P I の数値が出てこないイメージが湧かないと思います。

【企画課】 次回の会議には、自己評価結果、K P I の数値をお出しし、コメント欄は空欄にして外部評価のたたき台もお示ししたいと考えています。

補足しますと、最終的には、中柱のK P I の達成状況を束ねて大柱の単位で評価をいただきますが、それまでのステップとしてK P I の達成状況も個々に審査していただくことになると思います。

【部会長】 数字が出てくれば、具体的に分かると思いますが、今の段階では、評価の枠組みは分かりました。

総合戦略の評価と言うと、複雑なイメージがあるかもしれませんが、簡単に言えば、総合計画後期基本計画の評価を行うということです。総合戦略は総合計画のリーディングプロジェクトを兼ねていて、自己評価を前提にチェックしながら、評価していくということです。

自己評価が出て、外部評価に置き換えるときに、「順調に進んでいる」、「概ね順調に進んでいる」などを、「概ね」、「順調に」をどうやって分けるかということが議論になると思います。また、「遅れている」、「やや遅れている」もどこで切るのかということも議論になると思います。そういう部分は、個別の事業である小柱の自己評価もチェックしないと、分からない部分もあると思います。

自己評価が終わり、具体的な数字が出たら、第2回目の会議前に資料をいただき、事前に見て、評価の目安を検討していく必要がありますね。

【政策部長】 自己評価する我々も、AなのかBなのか、難しい部分はあります。

【部会長】 庁内から評価の仕方に問い合わせなどがありますか。

【企画課】 庁内では、資料1の2ページの上の表のとおり自己評価を行ってもらっています。基本的に、担当課は内部的な数値目標を持っていて、その数値の達成状況で大まかな自己評価が出てきます。次回に具体的な自己評価結果をお示しするときに、その個別の担当課の数値目標やその事業に対する課題などもできる限りお出ししたほうが、委員の皆様もコメントしやすいと思っています。

【委員】 例えば、基本目標1の「はだの一世紀の森林づくり構想」のうち、「地場産木材の普及、活用」という小柱がありますが、木材の流通、販売実績という数値は出るのですか。

【企画課】 今、手元に資料がありませんが、捉えているものがあれば、そういう趣旨の数値目標がありますので、出てくると思います。

【委員】 市民目線の視点も自己評価の中に入れることも大事であると考えま

す。独りよがりの評価にならないようにしたいですね。

【部会長】 まずは、K P I などに基づいて市の自己評価をしっかりと出していくことが、第一歩であって、これを市民に公表する時にどのように分かりやすく公表するのか。部会の評価に対する市民の意見を聴くことも大事です。総合計画では、市民アンケートを行っていますね。理想としては、事業の展開とともに、市民の声を聞く、反映させるというプロセスがあるとよい。自己評価を整理するときに、市民との関わりがあった場合には、担当課に何かコメントを書いてもらうようにしたらどうですか。

【委員】 市民の方にアンケートをすると、どの程度の参加になるのですか。

【企画課】 前回、この後期基本計画を策定する際に、市民意識調査として2,000人アンケートを実施していますが、有効回答率が約50%であったと記憶しています。来年度から新総合計画の策定作業に入る予定ですが、同様に基礎調査として、同規模の市民アンケートを行うことを考えています。

【委員】 そうですね。この規模でアンケートを実施しないと、偏った意見が出てしまい意味がないと思います。

【部会長】 委員が様々な事業の自己評価結果を見て、各委員が自分の経験をもとにして、評価していく。さらに、総合計画策定時などに市民が市の取組をどのように考えているのか、市民意識調査として把握するような別途の枠組みと考えるとよろしいかもしれません。そう考えると、毎年、市民アンケートを実施するのは難しいので、3年に1度であるとか何年かおきに実施してもらって、それを見て我々がこれまでの見識をもとにして、評価するという枠組みで考える。断定的な評価は難しいので、「概ね」とか、「やや」などの表現で少し余裕を持たせ、むしろコメントの部分で評価を記述していくというイメージになりますか。

【委員】 小柱の自己評価を示されるときに、元となる情報をできる限り示していただければ、我々も評価するときに参考になりますよね。

【部会長】 御意見のとおり、自己評価を見たときに、ここの部分はもう少し確認したいということはあるかもしれません。その場合は、関連するデータを出していただきたいと思います。

最後の評価の部分が大まかな表現ですから、そこに持っていくまでに細かいデータが必要であると考えます。印象で評価しましたというわけにはいきませんので、「やや」とか「概ね」などの評価に至ったときに、責任を持った根拠が必要であると思います。

いろいろ議論しましたが、枠組みについては、本日、お示しいただいた資料に基づいて、今回は担当課の自己評価を前提に評価を進めて行くということで御理解いただければと思います。

以上で議事（１）アについての協議を終わりたいと思います。

次にイの人口減少・少子高齢社会に向けた自治体経営の在り方についての資料の説明をお願いします。

【事務局】 ー資料２、資料３及び資料４に基づき説明ー

【部会長】 事務局の説明で質疑等がありますか。なければ、当面の予定を伺います。専門部会の当面の進め方はどのようなですか。

【事務局】 事務局から次のとおり連絡

第２回会議 平成２９年７月２８日（金） 午後２時から

第３回会議 平成２９年８月 ９日（水） 午前１０時から

第２回及び第３回は外部評価を進め、第４回以降は次回会議以降に調整する。

（人口減少・少子高齢化社会に向けた自治体経営の在り方については、第４回目以降に協議予定）

【部会長】 何か質問等はありませんか。

無いようでしたら、以上をもちまして、本日の会議を閉会といたします。

ー 閉 会 ー